



教育目標 : やさしく かしく たくましく

学校だより No. 4

笑顔発信！城内小

令和6年7月1日号

暇・退屈さ と 創造する力

今月 25 日（木）から夏休みに入ります。ゆっくり過ごしてほしいものですが、一方で長い休みの間には、何もすることがなく暇や退屈を感じることもあるかもしれません。

現代は習い事やさまざまな社会教育、民間団体主催のイベントもあり、与えられる楽しみも数多くあります。私が子どもの頃には、「あ〜退屈」「暇だな〜」と思う時間が結構ありました。その度に「今日はどうやって過ごしてやろうか」と思ったものです。友達を誘いに出掛けて「遊べない」と断られるとズーンと重い気持ちになりました。ですが、思い起こすと、一人でいる間にあれこれ考えたり何かしら工夫したりして過ごしていたように思います。友達と遊ぶにしても初めは時間を持て余し「ねえ、何する？」とおしゃべりしているうちに名前のない遊びをつくり出したこともありました。仲間と 4 人で、土が盛られた場所をいじって「後樂園（こうらくえん）」球場に因み「ぼくらくえん」球場と名付け、キャッチボールとちょっとしたバッティングをできるようにしました（考えると危なかったですが）。

「ドラえもん」や「パーマン」で有名な藤子不二雄は若い頃、漫画が届くまで首を長くして待ち、届いたらなめるように何度も何度も繰り返して読みあさっていたと言います。きっと漫画を待ちわびながら自分たちでまねをし、何か描き始めていたのではないのでしょうか。その意味で「退屈は新しいものを創り出す母」と言ってもよいかもしれません。



子どもはスイッチさえ ON になれば、楽しみながらも誰にも止められない、驚くほどの創造性を発揮するものだと思います。退屈のなせる技だと感じています。

勉強でも、繰り返し学習などは「退屈だ」と敬遠されがちです。ですが、この退屈さを退屈だと感じないで喜びにつなげることも大切な力だと思います。習字や書写は、姿勢を正して一筆一筆、注意を向けながら真心を込めて間違えないように書きます。計算もリコーダーも、粘り強く、考えようによれば面白くもない時間を積み重ねてようやくマスターする域に達します。大工さんでも左官屋さんでも板前さんでも同じで「型」を身に付けるまではきっと気が遠くなるほどの時間を要します。「退屈さ」と粘り強く付き合ううちに、やがて達成したり上達したりして、喜びを見出すものでしょう。

退屈と思われることを繰り返しているうちに、見える景色が変わって来ます。経験を重ね、やがて「自分は変わってきつつある。もう少しだ。面白い世界がこの先に待っている…」
そう思えるようになれば、もはや達人の域だと言えます。

退屈というのは、かくも「創造の動力源」だと思えてなりません。
時にメディア OFF で、暇な時間、退屈な時間を満喫してみませんか？
新しい気付きが生まれるかもしれません。



25 日からの夏休み 33 日間を、どうぞ安全第一で、かつ意義あるものになさってください。

佐渡も いいし 城内も いい

～ 6 年生修学旅行～



“ 佐渡の鬼と 6 年生 ” 「見える？ こっち」と見学場所を譲り合う 6 年生。あいさつとお礼の言葉が光る 6 年生。時間を厳守する 6 年生。盛り上がり話を聞く時の静けさと、けじめある 6 年生。皆様ののおかげで安全で意義深い旅ができました。

6 月 6～7 日、全員参加の佐渡修学旅行。

海水浴場に降り立つと海に駆け寄る 6 年生。

いじめを 決して 見逃さない

～ 周りの人が正義感をもつ～

6 月 12 日（水）、いじめ見逃しゼロスクール集会を全校で開催しました。生活指導主任から「がんばることは大切。でも、いやなことを言われたりされたりした時にはがんばらない（我慢しない）ことが大切」「周りで見ている人たちも声を上げて」と、お話を聞きました。

運営委員会のリードで「言っていきたいかな自分で考えて、言葉を使う」など「7 つの誓い」を全校で唱和しました。

ようこそ！先輩・地域の皆様（for クラブ活動 サポート）

5 月から地域学校協働ボランティア（登録 12 名）のうちクラブ活動講師をお務めいただいています。写真・サイエンス、イラスト・絵画、バドミントン、空手、布小物づくり…。地域のお力は偉大なり。



シリーズ「私の出会った子どもたち」⑩（「こんにちは！水のなかまたち」）

2 年生の生活科は「自分が楽しむ生き物」から「生命をもった生き物」へ、見方の変容を期待します。Y 男さんも S 男さんも工夫してつかまえた思い思いの生き物に愛着をもっています。水を替える、えさをあげる、たたかわせる、毎朝様子を話し合うなどして飼い続けました。9 日目、S 男さんは「生き物を逃がしてあげたほうがいい」と言い出しました。ザリガニの死がいが教室の床で見つかるようになったからです。大勢は「えー」「いやだよ」と反対します。「世話を続ける」と言い張る男子、「S 男さんの気持ちもわかるよ」と話す女子…学級全体が騒然としました。（中略）最後には皆が自分の決めた道を行く（飼い続ける、放す、時々小川で遊ばせながら飼う）ことになりました…。



☆ 飼い続けることに決めた Y 男さんの自由学習ノート（7 月）

「今日のあさおきて、水かえをしようと思ってげんかんの外に出て、ふたをあけて見たらザリガニがしんでいた。どうして？いつもと同じ水だったのに。やっぱりしんでいたばしょのほうがいいのかなあと思いました。とってもさびしかった」

★ 放すことに決めた S 男さんの日記（7 月 11 日）

「きょう、かっていたかえるをにがしました。まい日じゃないけどえさをやってそだてました。にがした日はちょうど雨だからにがしました。にがしてあげたら、1 ひきのかえるが『ひろいなあ～』とおもっているかんじがしました。ぼくは 2 ひきのかえるがかおとかおを見合っているように見えました。ぼくはそのかえるを見て、なにかどこへ行こうかそうだんしているふうにみえました。かえるくん、いつまでも元気でいれよな」

迷った末の苦渋の決断…、であったからこそ心の揺れと、自分のとった行動への確信・開放感が伺われます。子どもたちは自分を振り返り、仲間と互いに刺激を受け合って成長していきます。